目次

プロローグ …… 1

原爆と被差別部落
―長崎・被爆八〇周年を迎えて―（阿南重幸） 2

ふるさとは一瞬に消えた …… 2
被爆の体験と離散 …… 4
被爆と復元調査事業 …… 7
浦上町再建計画があった …… 9
涙痕の碑 …… 13
原爆がもたらした被害 …… 14
被爆八〇周年に …… 17

被爆の体験と戦後の生活 …… 19

語らんのじゃない、語りたくないんです
―長門次義さん 19

ふるさと浦上町 …… 19
靴の仕事 …… 21
被爆 …… 23
ふるさとはバラバラに …… 28
戦後 …… 30

妹の骨は、やはりあった ―長門充さん 33

被爆前のこと …… 33
被爆時 …… 34
被爆後の一週間 …… 36
戦後、五回の転宅・六回の転校 …… 36
再び浦上町、紙職人 …… 38
原爆について …… 39

子どもたちの看病と死と ―中村イネさん 40

被爆前のこと …… 40
八月九日、二日目、
三日目、四日目 …… 40
子どもたちの看病と死 …… 41
夫の死、子どもたちの養育 …… 41
子どもたちの自立、そしていま 42

二つの誕生日 ―中村由一さん 42

差別事件から …… 42
誕生日 …… 42
「ゲンバク」というあだ名 …… 43
苦労の体験が今日の今を支えている 43

疎開工場で ―末松亨さん 44

三菱の兵器工場 …… 44
疎開工場で …… 45
本工場で …… 45
二日目に …… 46

光がパッときて ―津田マサエさん 46

被爆まで …… 46
被爆時 …… 47
戦後の生活 …… 47

被爆後、三日目 ―梅本テル子さん 48

三日後の浦上 …… 48
暮らしがたつように …… 48

家が倒れてくる夢 ―橋本アキヨさん 49

被爆、その日 …… 49
被爆後 …… 51

結婚後の五年半 ―中村菩子さん 51

一九四五年八月九日 …… 51
青春時代 …… 52
結婚 …… 52
家族の支え …… 53

被爆と後遺症と　―博多屋国安さん……53
その瞬間……53
出血……54
後遺症……54
《資料》
・浦上町の被爆犠牲者……56
・被爆証言に関する新聞報道（一部）……57
・平和への思いを込めた、万羽鶴
～被爆75周年原爆犠牲者追悼法要～
【解放新聞】（2020年9月2日号）……62
あとがき……66

プロローグ

被爆八〇年を前に昨年一二月、日本被団協がノーベル平和賞を受賞した。代表委員の田中熙巳さんは、一三歳のとき長崎で被爆。スピーチでは、被爆で肉親を五人亡くしたこと、生き残った被爆者が占領軍に沈黙を強いられ、「日本政府からも見放され、被爆後の一〇年余を孤独と、病苦と生活苦、偏見と差別」に耐え続けたことを訴えた。

また、一九五四年のビキニ環礁でのアメリカの水爆実験に第五福竜丸の乗組員二三人が被爆し全員が急性放射能症を発症、これを契機に、「核兵器の廃絶と原爆被害に対する国の補償」を求めて「日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）」が結成されたこと。

一九九四年「原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律」が制定されたが、何十万という死者に対する補償は一切なく、日本政府は一貫して国家補償を拒み、放射線被害に限定した対策のみ続けていること。等々……。

最後に、「世界中のみなさん、『核兵器禁止条約』のさらなる普遍化と核兵器廃絶の国際条約の策定を目指し、核兵器の非人道性を感性で受け止めることのできるような原爆体験者の証言の場を各国で開いてください」と述べた。

（ノーベル平和賞受賞式　日本被団協　田中熙巳さん「演説」より）